



## ■携帯・スマートフォンを持たせる場合は

大崎町教育委員会では、メディア機器（携帯電話・スマートフォン等）の適正な使用に向けた取り組みの推進を掲げています。

インターネットやアプリを、安全に正しく使うことができれば、学習や生活にとっても役立つものです。しかし、近年子どもたちのゲーム依存等による生活習慣の乱れや健康障害が指摘されています。また、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったり、誹謗中傷やいじめのはじまりになったりもします。

また、子どもたちが被害を受けるだけでなく、加害者となってしまう場合もあります。

これからのデジタル社会を生きていく子どもたちを被害者・加害者にしないためにも、インターネット・スマートフォンを始めとするデジタル機器、SNSなどのコミュニケーションの道具を「賢く活用する知識・知恵」を育てることが大切です。

そこで、大崎町教育委員会では、**携帯・スマホ等の使用ルール 10 か条**を改訂しました。（前頁に掲載）

この10か条を親子で一緒に確認し、携帯・スマートフォンの安心・安全で健全な使い方を今一度考えてみましょう。

# まぶい窓おの庭 一流の人

No.62

中沖小学校 校長 松田 恵子

「ごめんくださいませ。」電話の向こうのまだ見ぬ人はそうそう言った。受話器を置きながらこの人にラン（我が家の大型犬）をお願いしようと決めた。今から約二十年前、我が家に連れてきたランは、興味関心旺盛なラブラドルの子犬。困り果てた末、犬の学校（訓練所）で教育していただくことにした。こうして、ランは、宮崎市のK氏のご夫婦で経営されている犬の学校へ入学することになった。

犬の学校へ初めて訪れた日。ランを見るお二人の穏やかな表情と「この子は、素晴らしいものを沢山もっていますね。」の言葉に驚きと同時に安心感を抱いた。

月に一度、犬の学校を訪れるたび、ランの著しい成長に目を見張った。どうすればこのように育てることができるのか。訓練後にK氏と語り合う時間は、いつしか私にとって学びの時間となった。K氏の仕事に対する姿勢やさり気なく発する言葉が、ランの嬉しそうに訓練を受けている姿とともに、今でも私の心に住み続けている。

- ・犬一頭一頭の個性を的確に把握し、個に応じた訓練の仕方を常に工夫・改善していく。
- ・その犬のよさを引き出し、生かした訓練をする。
- ・訓練前に興味関心・意欲がもてるように仕掛け、したくて仕方がない状態にしてから訓練する。
- ・その犬が頑張っていることや成長したことのみを家族に知らせる。
- ・その犬が納得できる叱り方をする。
- ・相手が犬であっても言葉遣いや眼差し、仕草に配慮する。
- ・失敗したときにどうやって自信をもたせるか、それが成長させるかさせないかの分岐点となる。